

男子戦評

大会名 第69回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日 時 平成28年11月12～13日

会 場 カクヒログループスタジアム

男子決勝（11月13日）

弘前工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25-19 \\ 25-20 \\ 25-18 \end{array} \right\}$ 0 五所川原工業高等学校

ファーストレフリー

新岡 勇士

セカンドレフリー

晴山 雅紀

3年連続39回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）と3年ぶり7回目の出場を目指す五所川原工業高校（以下五工）との対戦である。昨年と同じ対戦カードとなった。激しい代表校争いが期待される。

第1セット、弘工のサーブから試合が開始された。開始直後、五工は6番鈴木の一人時間差で奇襲をかけ、先制に成功する。序盤は、弘工は時間差攻撃、サイドからのアタックなど、多彩な攻撃をしかけ、ペースを握る。対する五工も11番リベロ高橋などの粘り強い守備と3番成田などの巧打で得点する。弘工は11番工藤のサービスエースなどで4連続得点し、一気に突き放す。中盤、五工は3番成田のスパイク、5番工藤のサービスエースやスパイクなどで4連続得点、弘工を猛迫する。終盤、弘工は1番春藤にボールを集め、高さとパワーのあるスパイクで加点する。25-19で弘工が第1セットを先取した。

第2セット序盤、弘工は6番セッター伊藤が各スパイカーを偏りなく使い、五工ブロッカー陣に的を絞らせない攻撃をしかける。五工は要所で5番工藤のブロックなどで得点する。中盤までは一進一退の攻防が続くが、弘工がバックアタックやサーブなどで加点し、五工が弘工を追う展開になる。終盤、五工は6番鈴木、5番工藤の連続ブロックポイントで流れを引き寄せるが、25-20で弘工が連取した。

第3セット、弘工は1番春藤のスパイク、ブロックで抜け出す。五工はブロックやディグで粘り強くボールをつなぎ、追いかける。弘工も球際のつなぎがよく、粘り強く攻撃する。五工はスパイクやブロックで弘工を崩す場面はあるものの、ミスもあり、点差を詰めることができない。弘工がリードしたまま終盤に突入し、最後は弘工春藤のスパイクが決まり、25-18で3セットも勝利し、3年連続39回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 本間 貴士